

全体総括

計画期間；平成 26 年 4 月～平成 31 年 3 月（5 年）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市では、平成 26 年 3 月に内閣総理大臣の認定を受け、同年 4 月からスタートした長岡市中心市街地活性化基本計画＜第 2 期計画＞に基づき、第 1 期計画において整備されたアオーレ長岡などの活用を含め、「まちなか型公共サービス」のさらなる促進と「市民協働によるまちづくり」を一体的に進め、まちなかの賑わいづくりに努めてきた。

平成 28 年度に主要事業の「大手通表町西地区第一種市街地再開発事業」や「新・社会福祉センター整備事業」が完成し、「まちに住む人」や「まちを使う人」が増加したほか、第 2 期計画に掲載する各種活性化事業の取組によって、「まちに来る人」の歩行者通行量が平成 29 年度には目標値を突破するなど、まちの賑わいを肌で実感できるようになってきている。また、昨今では、路面に面した 1 階の空き店舗に飲食店が次々と出店するなど、民間投資の機運が高まっている様子が見受けられる。

一方で、JR 長岡駅やアオーレ長岡周辺に賑わいが留まっていることや、若者世代がまちなかに少なく、進出する民間の業種・業態が限定されていることが、活性化の課題となっている。

【中心市街地の状況に関する基本的なデータ】

（基準日：毎年度 4 月 1 日）

（中心市街地 区域）	平成 25 年度 （計画前年度）	平成 26 年度 （1 年目）	平成 27 年度 （2 年目）	平成 28 年度 （3 年目）	平成 29 年度 （4 年目）	平成 30 年度 （最終年度）
人口	5,677 人	5,490 人	5,409 人	5,613 人	5,577 人	5,347 人
人口増減数	-	-187 人	-81 人	204 人	-36 人	-230 人
自然増減数				-40 人	-45 人	-61 人
社会増減数				110 人	-9 人	-16 人
転入者数				315 人	269 人	240 人

当市においては自然増減数・社会増減数・転入者数を町丁目単位で抽出しており、中心市街地活性化区域が町丁目単位よりも細かく指定されていることから、正確に抽出することができず、区域内の人口増減数と一致しないもの。また、平成 27 年度の基幹システムの変更により、27 年度以前のデータが抽出できず、記載できないもの。

**2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。
 （個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）**

【進捗・完了状況】

概ね順調に進捗・完了した 順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

かなり活性化が図られた
 若干の活性化が図られた
 活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
 活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由（2.における選択肢の理由）

計画した 56 事業のうち、6 事業が計画期間内に完了、48 事業が着手済みとなっており概ね順調に進捗・完了したといえる。

一方で、人口減少や中心市街地の商業衰退など、地方行政を取り巻く環境はますます厳しくなっており、当市においても例外ではない。(本市人口:平成 25 年度 279,507 人 平成 30 年度 269,920 人、空き店舗率:平成 25 年度 13.0% 平成 30 年度 17.6%)

また、中心市街地内の居住人口減少率は 5.8%(平成 25 年度 5,677 人 平成 30 年度 5,347 人)と市全体の人口減少率 3.4%を上回っている。

そのような状況の中、中心市街地活性化基本計画における取組の効果について以下のとおり着実に出てきている。

まず、「ナカドマ活用事業」などのPR効果により、アオーレ長岡がイベントだけでなく普段使いの場として市民に定着したことにより、目標指標である平日歩行者通行量が平成 29 年度には目標値である 100,000 人を突破した。

また、「子育ての駅ちびっこ広場駐車料金負担軽減事業」や「トモシア交流支援事業」などの事業効果により、まちなかの公共・公益施設の利用者数は、急激な人口減少の影響等により基準値・目標値には達しないものの、平成 24 年度のアオーレ開業時のインパクトを除けば、年々着実に増加している(平成 25 年度 1,302,089 人 平成 30 年度 1,463,631 人)。

以上のことから、当市における中心市街地の活性化の状況は、若干の活性化が図られたと考える。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- かなり活性化が図られた
- 若干の活性化が図られた
- 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

長岡市中心市街地活性化協議会としては、本計画に位置付けられた全 56 事業について、行政、関係団体等が中心市街地の活性化に総合的かつ一体的に取り組んだ結果、約 96%に当たる 54 事業が完了または実施中であることから、本計画が順調に進捗したものと考える。

特に、ハード事業である「大手通表町西地区第一種市街地再開発事業」や「新・社会福祉センター整備事業」に加え、「多世代健康まちづくり事業」や「ナカドマ活用事業」などのソフト事業がバランス良く展開されたことで、目標「まちに来る人を増やす」の目標指標である平日の歩行者通行量が平成 29 年度は目標値の 100,000 人を突破し、また最終年度の平成 30 年度は目標値をわずかに下回ったものの、毎年安定して多くの来街者が来るまちに変貌したことは評価できる。

一方、目標「まちに住む人を増やす」と「まちを使う人を増やす」については、残念ながら目標値を達成できなかったため、今後は原因をしっかりと分析したうえで対策を講じていく必要がある。

地方都市における中心市街地の衰退が叫ばれる中、持続可能なまちづくりを目指して、中心市街地の特性とこれまで整備した都市機能を有効に活用し、引き続き官民一体となって中心市街地の活性化に取り組む所存である。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

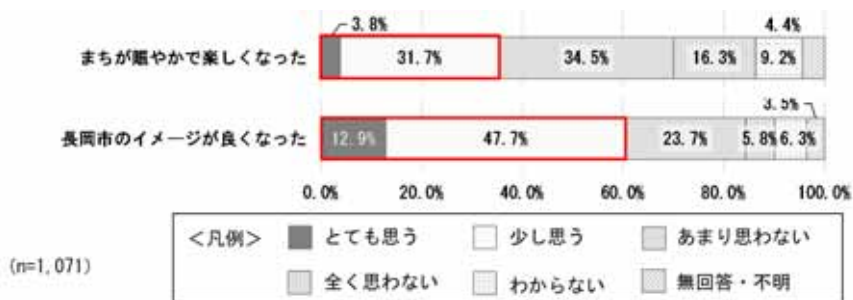
- かなり活性化が図られた
- 若干の活性化が図られた
- 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

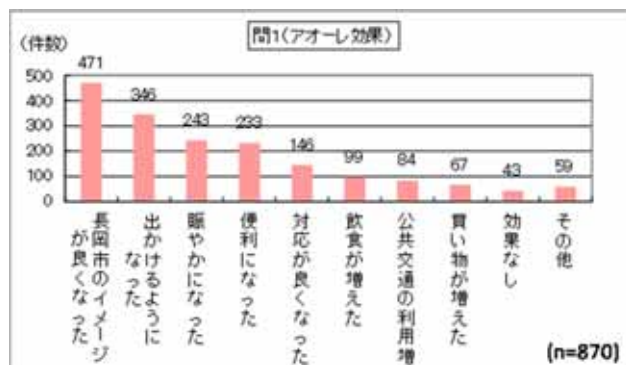
長岡市の中心市街地に関する市民アンケート調査(平成 29 年度)
調査日:平成 30 年 3 月 5 日(月)~20 日(火)

調査方法:18歳以上の市民から無作為抽出によりアンケートを郵送

回収数:1,071人(回収率:53.6%)



アオーレ長岡イベント来場者アンケート調査(平成24年度)



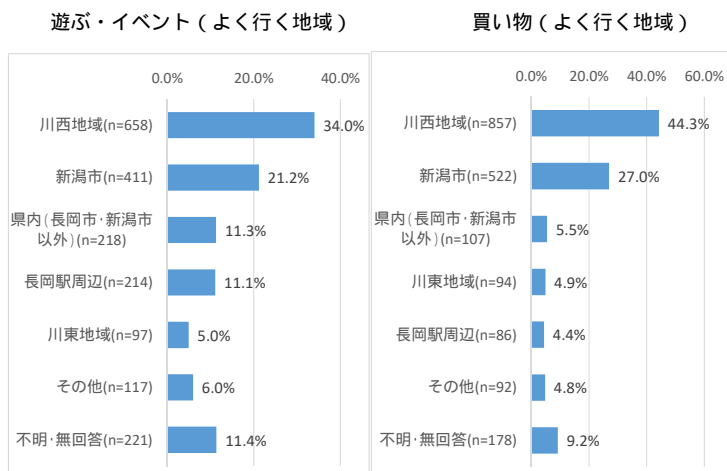
オープンから半年後(平成24年9月~10月)を機にアオーレ長岡の利用者を対象に実施したアンケートでは、「長岡市のイメージが良くなった」と回答する人が54.1%と過半数を超え、さらに平成29年度に実施したアンケートでは、同項目について「とても思う」「少し思う」と回答する人が60.6%に増加した。また、「賑やかになった」と回答した人は平成24年度では27.9%と3割以下だったが、平成29年度では同項目について「とても思う」「少し思う」と回答する人が35.5%と増加していることから、まちなかを好意的にとらえている市民が年々増えてきていることがうかがえる。

市内の企業に在籍する10代~30代の若者へのアンケート調査(平成28年度)

調査日:平成28年2月~3月

調査方法:市内の企業に勤務する10代~30代の若者に調査票を配布し郵送回答

回収数:1,936人



「遊ぶ・イベント」や「買い物(ファッション)」のそれぞれの場面で普段良く行く地域として「川西地域」

を挙げる回答割合が3割程度と「長岡駅周辺」の1割程度を大きく上回る結果となった。10代～30代の若者が中心市街地を十分に使っているとは言い難い状況にある。

6. 今後の取組

本計画では、歩行者通行量の目標値をほぼ達成したものの、歩行者の多くはJR長岡駅及びアオーレ長岡周辺に留まっており、回遊が限定的であることから、中心市街地全体の活性化に向け、賑わいの核と賑わいの芽をつないで新たな賑わいを創り、さらに官民が連携してまちなかの魅力を高めることで、賑わいの密度を高め、回遊の拡がりを創っていく必要がある。

また、中心市街地の空き店舗数及び空き店舗率は増加傾向にあり、中心市街地における就業者数の減少、金融・保険業、サービス業を中心に長岡全市における法人市民税の税収が減少しているなど、産業の活力が低下している中、大手通坂之上町地区市街地再開発事業に対して、商工会議所や市内の3大学1高専から産業連携を推進する構想が提案されるなど、地域にある知識と技術を活かした産業振興の機運が生まれていることから、このチャンスと多くの情報が集まる中心市街地の強みを活かして、多様な産業が育ち、集積する拠点としての輝きを取り戻していく必要がある。

さらに、市民アンケート結果から、若年層の市内回帰は回復傾向にあるが、若者の買物行動を分析すると、中心市街地が十分に利用されていないため、中心市街地が今後、持続的に発展していくためには、多くの学生が学ぶ市の特性を活かすとともに、市内3大学1高専から提案を受けた人材育成と産業振興の構想「NaDeC構想」やながおか・若者・しごと機構による取組など、将来を担う若者の新たな可能性を引き出すための動きが芽生え始めている機運を捉え、若者が中心市街地に魅力を感じ、集い、暮らし、活躍できる環境の整備・充実を図っていくことが必要である。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
まちに「来る人」を増やす	平日歩行者通行量	95,033人 (H25)	100,000人 (H30)	99,683人	H30.10	B
まちに「住む人」を増やす	まちなか居住人口	5,677人 (H25)	5,900人 (H29)	5,347人	H31.3	C
まちを「使う人」を増やす	まちなか公共・公益施設の利用人数	1,500,000人 (H24)	1,600,000人 (H30)	1,463,631人	H31.3	C

(参考指標)

まちなかの滞在時間の増加	まちなかの駐車場の利用時間	107分 (H24)	120分 (H30)	103分	H31.3	C
--------------	---------------	---------------	---------------	------	-------	---

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

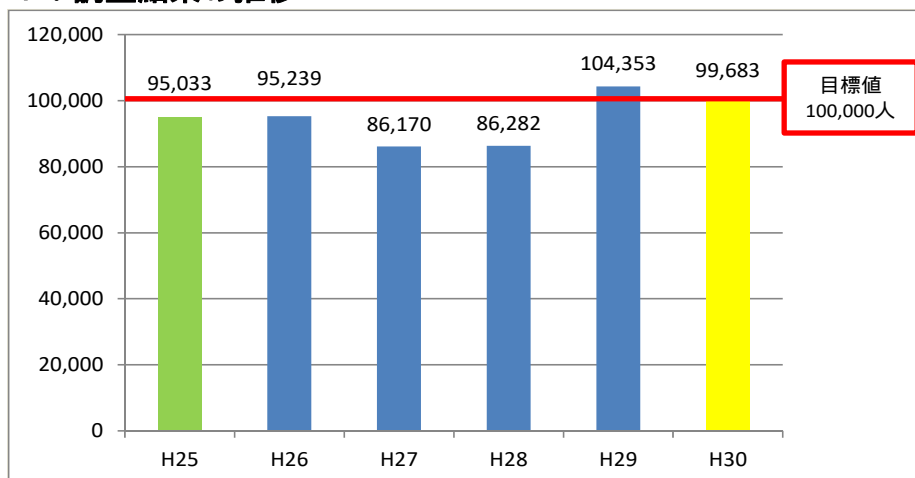
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「歩行者・自転車通行量（平日）」 目標設定の考え方基本計画 P66～P69 参照

1. 調査結果の推移



年	人
H25	95,033 (基準年値)
H26	95,239
H27	86,170
H28	86,282
H29	104,353
H30	99,683
H30	100,000 (目標値)

調査方法：歩行者・自転車通行量調査

調査月：平成 30 年 10 月 12 日（金）時点調査

調査主体：長岡市

調査対象：歩行者・自転車（大人、子供、男女別に調査）

2. 目標の達成状況 【B】

歩行者通行量の増加に向けた各事業については、主要事業である「大手通表町西地区第一種市街地再開発事業」及び「新・社会福祉センター整備事業」が着実に進捗した。

それらの事業効果が発現し、またアオーレ長岡など既存施設が多くの市民から安定して利用された結果、平成 29 年度は歩行者通行量が目標値を上回った。

しかし、平成 30 年度は、アオーレ長岡やJR長岡駅周辺から離れた地点において歩行者通行量の下落幅が大きく、僅かに目標値に達しなかったため、達成状況はBとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・大手通表町西地区第一種市街地再開発事業（大手通表町西地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成 23 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	市街地の機能更新と高度利用を図るため、福祉・医療施設、業務施設、商業施設、集合住宅等を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)(国土交通省) 平成 23 年度～平成 28 年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値 1,376 人 最新値 1,888 人 目標達成
達成した理由	各施設の使い勝手の良さや積極的なPRにより、整備した社会福祉センター「トモシア」や、テナント入居する歯科医院等の利用者数が推計よりも多かったため。
計画終了後の状況（事業効果）	社会福祉センター「トモシア」だけでなく、塾や歯科医院等入居テナントの利用者も増加し、老若男女問わず市民の憩い・交流の場となっている。
事業の今後について	事業完了済み。

・新・社会福祉センター整備事業（長岡市）

事業実施期間	平成 26 年度～平成 28 年度[済]
事業概要	大手通表町西地区において、福祉の交流拠点となる「新・社会福祉センター」を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等と一体の効果促進事業)(国土交通省) 平成 26 年度～平成 27 年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値 1,376 人 最新値 1,888 人 目標達成 大手通表町西地区第一種市街地再開発事業整備と同じ
達成した理由	各相談・支援センターや併設する障がい者雇用カフェの認知度が高まり、利用者が年々増加してきているため。
計画終了後の状況（事業効果）	これまで中心市街地から離れたところにあった社会福祉センターを交通弱者など誰もが訪れやすい中心市街地に移転した結果、これまで以上に多くの市民から利用され、また多世代が交流する場となっている。
事業の今後について	当該整備事業は完了済み。今後は当該施設を活用した「トモシア交流支援事業」を実施し、市民の交流・活動の場を提供するとともに、福祉ボランティアのマッチングをはじめ、分野や世代を超えた活動を広く支援していく。

・多世代健康まちづくり事業（長岡市）

事業実施期間	平成 26 年度～平成 35 年度[実施中] [認定基本計画:平成 26 年度～平成 30 年度]
事業概要	市民の健康寿命の延伸を図るため、子どもから高齢者まで多世代にわたる人々が気軽に・楽しく・簡単に健康づくりに取り組める健康情報発信拠点をまちなかに整備し、産学官が連携した取組を中心市街地から展開する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省) 平成 26 年度～平成 30 年度 中心市街地再興戦略事業費補助金(経済産業省) 平成 26 年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値 278 人 最新値 643 人 目標達成
達成した理由	市民の健康に対する意識が高まっており、健康講座やウォーキングイベント等への参加率が増加しているため。
計画終了後の状況（事業効果）	○健康づくり講演会等の開催 ○ウォーキングイベント等の開催 ○まちなかまるごとタニタ食堂の展開 ○その他、「まちなか健康講座」「まちなかウォーキング」「カフェ DE 健康・運動相談」の定期的実施 など、子どもから高齢者まで誰もが訪れやすい中心市街地において、民間活力を導入した健康づくりの取り組みを展開し、来街者の増加や健康増進に向けた行動変容の促進に繋がった。
事業の今後について	引き続き子どもから高齢者まで多世代にわたる市民の健康寿命の延伸を図るため、官民連携による健康づくり事業を中心市街地で展開し、まちなかで多世代の人で賑わうまちづくりの創出を図る。

・ナカドマ活用事業（長岡市）

事業実施期間	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の賑わい創出に向け、アオーレ長岡の屋根付き広場「ナカドマ」を活用した様々な事業や催しを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省) 平成 26 年度～平成 30 年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値 9 人 最新値 32 人 目標達成
達成した理由	休日のイベントだけでなく、平日でも様々な催し物が開催され、中でも、地場産の農作物や加工品等を販売するイベント「ばくばくマルシェ」は市民からも人気が高く、来場者も多いため。(約 600 人/日)
計画終了後の状況(事業効果)	アオーレ長岡の拠点性を活かした様々な催し物の開催により、多くの方々がアオーレ長岡を訪れ、中心市街地の賑わい創出の一役を担った。
事業の今後について	引き続き、ナカドマで様々な事業やイベントを開催し、多くの人々が集い、協働・交流することから生まれる“賑わい”を積極的に外に拡げることで、中心市街地の更なる活性化へ繋げていく。

・長岡まちなかマルシェ事業(長岡商工会議所)

事業実施期間	平成 25 年度～平成 28 年度【済】 [認定基本計画:平成 25 年度～]
事業概要	中心市街地の賑わい創出を図るため、地元企業の販売促進事業として、マルシェを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	-
達成出来なかった理由	ビアフェスタなど屋外で開催するイベント事業のため、天候に左右されやすかった。また、イベントのマンネリ化が進んでいた。
計画終了後の状況(事業効果)	本事業は終了したが、それに代わる事業として、各個店の紹介とお得に買い物できるクーポン冊子「ポッキリパスポート(ポキパス)」を発行して、市民から広く利用されている。
事業の今後について	事業完了済み。

・中心市街地新規進出者支援事業(長岡市)

事業実施期間	平成 28 年度～平成 30 年度【済】 [認定基本計画]平成 28 年度～
事業概要	中心市街地に新たに進出する商店・企業等に対し支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 3,514 人 最新値 0 人 目標未達成
達成出来なかった理由	平成 28 年度から支援制度はあったものの、支援制度を十分に広報できておらず、また民間支援団体の柔軟な相談体制等により、行政を頼らずに民間主導で新規出店していたことから、当該事業が活用されず目

	標達成できなかったもの。
計画終了後の状況 (事業効果)	行政支援に頼らずとも、民間事業者が主体となり中心市街地への新規進出者が増加している。 また、起業支援センターNAGAOKAを軸とした、中心市街地への出店支援や、ながおか若者しごと機構と連携した定期露店市場へのお試し出店など、出店意欲を高める取り組みを行っている。
事業の今後について	今後は民間事業者の意向やトレンドを的確に把握し、また民間事業者と連携しながら、必要な支援事業を検討していきたい。

4. 今後の対策

アオーレ長岡やJR長岡駅周辺、大手通表町西地区第一種市街地再開発事業付近の調査地点では歩行者通行量が増加したことから、事業の効果は確実に見られた。

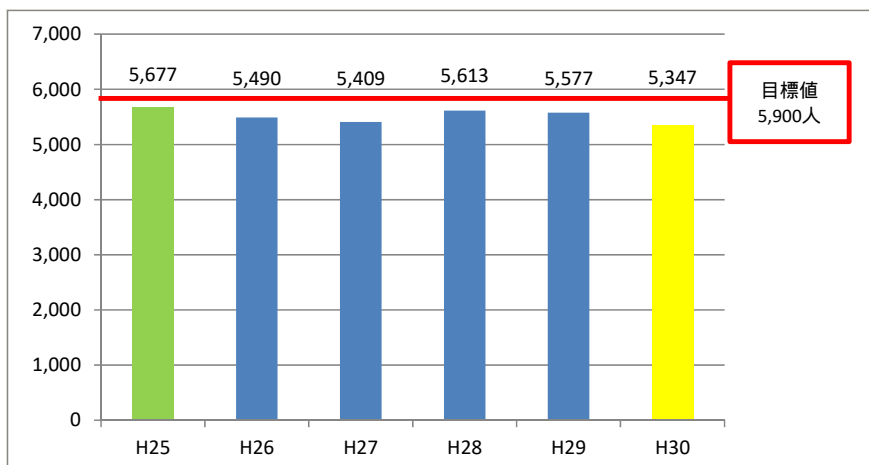
一方で、通行量の増加が見られた調査地点は限定的であり、今後はアオーレ長岡やJR長岡駅周辺に集中している賑わいを中心市街地全体へ広げていく必要がある。

具体的には、大手通坂之上町地区第一種市街地再開発事業において整備する「まちなか図書館(仮称)整備事業」や「産学連携情報交流センター(仮称)整備事業」などのハード事業と、平成28年度に整備した社会福祉センタートモシアでの「トモシア交流支援事業」や、まちなかにおける「歩道の有効活用『まちカフェ』事業」などのソフト事業を効果的に展開することで、新たな賑わいの核を創り、賑わいの芽を繋ぐことで、中心市街地全体の歩行者通行量を増やし、回遊性を高めていく。

今年度から開始した「長岡市中心市街地活性化基本計画<第3期計画>」では、大手通交差点より西側の歩行者通行量を目標指標に位置付けているが、中心市街地全体の賑わいの拡がりを把握するためにも、従来の調査地点についても継続して注視していく。

「まちなか居住人口」 目標設定の考え方基本計画 P70～P71 参照

1. 調査結果の推移



年	人
H25	5,677 (基準年値)
H26	5,490
H27	5,409
H28	5,613
H29	5,577
H30	5,347
H30	5,900 (目標値)

調査方法：中心市街地域での住民基本台帳人口

調査月：平成 30 年 3 月

調査主体：長岡市

調査対象：中心市街地内の居住者

2. 目標の達成状況 【C】

まちなか居住人口の増加に向けた各事業については概ね予定どおりに事業が進捗した。しかしながら、急激な人口減少社会の進展により長岡市全体の居住人口が減少する中、中心市街地の居住人口においても想定以上の自然減が進行し、中心市街地内の居住人口減少率は 5.8% (平成 25 年度 5,677 人 平成 30 年度 5,347 人) と市全体の人口減少率 3.4% よりも上回る結果となった。

「大手通表町西地区第一種市街地再開発事業」で整備されたマンションの供給により、事業としての目標値は達成したものの、平成 30 年度のまちなか居住人口は基準値・目標値とも達成しなかったため、達成状況はCとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・大手通表町西地区第一種市街地再開発事業（大手通表町西地区市街地再開発組合）

【再掲】

事業実施期間	平成 23 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	市街地の機能更新と高度利用を図るため、福祉・医療施設、業務施設、商業施設、集合住宅等を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)(国土交通省) 平成 23 年度～平成 28 年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値 200 人 最新値 252 人 目標達成
達成した理由	マンション戸数や老人ホーム整備部屋数を計画当初より多く供給することができたため。(マンション:54戸 66戸、老人ホーム:80人 120人)
計画終了後の状況（事業効果）	社会福祉センター「トモシア」も含め、福祉や医療を利用する人に多く活用され、高齢者が安心して暮らせる環境づくりの一環となった。
事業の今後について	事業完了済み。

・まちなか住マイル促進事業（長岡市）

事業実施期間	平成 25 年度～平成 30 年度[済]
事業概要	まちなかにおける多世代居住を促進するため、空き家、空きビル等の有効活用を図る住宅施策を講じ、居住人口の増加につなげる。とりわけ、若者・学生の居住を促進する施策の検討を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし [認定基本計画：地域優良賃貸住宅制度、民間住宅活用型住宅セーフティネット整備促進事業、住宅確保要配慮者あんしん居住推進事業(国土交通省)(平成 25 年度～平成 30 年度)]
目標値・最新値及び達成状況	目標値 150 人 最新値 -人 目標未達成
達成出来なかった理由	空き家バンクなどの利活用により効果的に空き家が減少しているが、当該事業によりまちなか居住者がどれだけ増えたか把握していないため、未達成としたもの
計画終了後の状況（事業効果）	事業効果を数字で表すのは難しいが、HP の検索数が飛躍的に伸びている(H27、1473 件 H30、約 3000 件)
事業の今後について	空き家バンクなど必要な事業は、今後も継続して実施する。

・高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額補助事業（長岡市）

事業実施期間	平成 16 年度～平成 35 年度[実施中]
事業概要	高齢者の安心な居住環境を確保し、さらに定住人口の増加につなげるため、高齢者専用マンションの入居にあたり、収入に応じた家賃減額を行う。
国の支援措置名及び支援期間	公的賃貸住宅家賃対策調整補助金(国土交通省) 平成 16 年度～平成 35 年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値 10 人 最新値 1 人 目標未達成
達成出来なかった理由	中心市街地に位置し、買い物や公共施設などの利用に便利のため、整備当初から入居率が高く、入居者の転出も少ないため。
計画終了後の状況（事業効果）	空き部屋がほとんどなく、施設が大いに有効活用されている。 (H31.3 月末現在 49 部屋/50 部屋入居済み)
事業の今後について	当該補助制度が続く平成 35 年度まで継続的に実施し支援を行う。

・優良建築物等整備事業（長岡市）

事業実施期間	平成 28 年度～平成 31 年度[実施中]
事業概要	市街地の機能更新と高度利用を図るため、老朽建築物や空き地の共同化による市街地環境の整備・改善を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(優良建築物等整備事業)(国土交通省) 平成 28 年度～平成 31 年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値 -人 最新値 0 人 目標未達成

達成出来なかった理由	変更申請で追加した事業のため、事業効果の目標値を設定していないこと、及び実施された整備事業がなかったため、未達成としたもの
計画終了後の状況（事業効果）	再開発推進事業補助金を申請し、アドバイザーの派遣を受けて事業化に向けた取組みがあったものの、住民の合意形成まで達することができなかった。しかしながら、事業化支援を行ったことにより、民間主導による建て替え機運の醸成に寄与することができた。
事業の今後について	具体的な整備事業に繋がるよう今後も事業を継続していく。

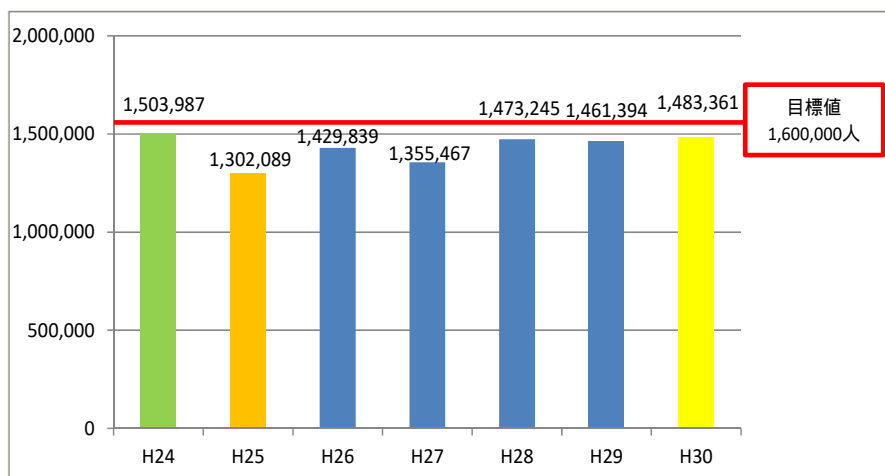
4.今後の対策

目標達成に向けた主要事業である大手通表町西地区第一種市街地再開発事業の完了により、まちなか居住人口が一時的に増加したものの、自然減及び大学や社会進出による30代以下の転出による社会減が多く、それ以降は数値が減少傾向にあった。一方で、高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額補助事業により高齢者専用マンションはほぼ満室状態で、高齢者の安心な居住環境の確保は地域のニーズに合致しており、また、数値的にも事業効果があったといえる。

今年度から開始した新たな「長岡市中心市街地活性化基本計画〈第3期計画〉」では、30代以下のまちなか居住人口を目標指標に位置付けており、「まちなか居住区域定住促進事業」や「子育ての駅ちびっこ広場・まちなか保育園事業」などによる若者が暮らしやすい環境を整備することで、30代以下の居住人口減少に歯止めをかけていく。また、併せて全世代のまちなか居住人口も継続して注視していく。

「まちなか公共・公益施設の利用者人数」 目標設定の考え方基本計画 P72～P74 参照

1. 調査結果の推移



年	人
H24	1,500,000 (基準年値)
H25	1,302,089
H26	1,429,839
H27	1,355,467
H28	1,473,245
H29	1,461,394
H30	1,483,361
H30	1,600,000 (目標値)

調査方法：各公共・公益施設利用者人数集計

調査月：平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

調査対象：アオーレ長岡、市民センター、まちなかキャンパス、ちびっこ広場、ながおか町口御門（新・社会福祉センター）

2. 目標の達成状況 【C】

まちなか公共・公益施設の利用者人数の増加に向けた各事業については、概ね予定通りに事業が進捗し、主要事業は見込まれた事業効果を発現した。

また、平成 30 年度の長岡開府 400 年記念事業についても着実な事業進捗と効果が発現し、前年度から利用者が約 2 万人増加したものの、平成 24 年度のアオーレ長岡開業時のインパクトが含まれ高く設定された基準値の影響が大きく、基準値・目標値とも達成しなかったため、達成状況は C とした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・大手通表町西地区第一種市街地再開発事業（大手通表町西地区市街地再開発組合）

【再掲】

事業実施期間	平成 23 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	市街地の機能更新と高度利用を図るため、福祉・医療施設、業務施設、商業施設、集合住宅等を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)(国土交通省) 平成 23 年度～平成 28 年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値 77,000 人/年 最新値 121,151 人/年 目標達成
達成した理由	社会福祉センター「トモシア」が市民から広く認知され、利用者が年々増加していることによるもの。
計画終了後の状況（事業効果）	会議室を学習スペースとして開放している場合もあり、高齢者や福祉団体等だけでなく、学生による利用も増えてきている。
事業の今後について	事業完了済み。

・シティホールプラザ「アオーレ長岡」運営事業（長岡市）

事業実施期間	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	市民協働・交流の拠点である「アオーレ長岡」の貸館部分の管理運営のほか、市民が集い交流できるアオーレ長岡の雰囲気づくりや市民が主体となって実施するイベントのサポートを行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省) 平成 26 年度～平成 30 年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値 16,000 人/年 最新値 29,783 人 目標達成 (当該事業による利用者数は 27,023 人)
達成した理由	多種多様なイベントの計画により、市民の興味関心を惹きつけ自ら足を運びたいようなイベントにすることができたため。
計画終了後の状況(事業効果)	四季折々の情緒を醸し出す様々な雰囲気づくりを行った。これにより、多くの人々がアオーレ長岡に足を運んでくれたことはもちろん、「市民の憩いの場」「普段使いの場」としても定着した。
事業の今後について	今後も事業を継続して、イベントの実施はもとより、利用者の利便性がさらに向上するよう取り組んでいく。

・市民活動推進事業費補助金(長岡市)

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	市民力、地域力による様々な市民活動を促進するため、その活動に対し、市が補助金を交付する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 16,000 人/年 最新値 29,783 人 目標達成 (当該事業による利用者数は 2,760 人)
達成した理由	市民団体の様々な活動により、多くの市民が集い交流したことに加え、国際的なイベントの実施により、異文化に興味関心のある市民や市内在住の外国人が気軽に集まり交流できるイベントとなり、より多くの人々がアオーレ長岡に足を運んでくれたため。
計画終了後の状況(事業効果)	アオーレ長岡の利活用について市民からの認識度が高まり、また「市民の憩いの場」「普段使いの場」としても定着した。
事業の今後について	今後も市民団体が主体となった活発的なイベントが開催できるよう継続的に支援していく。

・市民協働人材発掘・育成事業(NPO法人市民協働ネットワーク長岡)

事業実施期間	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	「市民交流」や「まちづくり参加」へのきっかけをつくるため、交流会(1日店主のも～れ長岡!)を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	目標値 500 人/年 最新値 285 人/年 目標未達成
達成出来なかった理由	年間開催回数を計画時では年10回としていたが、実際は偶数月のみの開催に変更されていた。また、参加者も少なかったため達成できなかった。
計画終了後の状況	交流会を開催することで、各団体の市民力向上や活動の仲間づくりが

(事業効果)	促進され、市民の「まちづくり参加」へのきっかけづくりに寄与している。
事業の今後について	参加者のニーズに合致し、また多くの市民から参加してもらえるよう企画・検討のうえ、今後も各種講座や交流会を開催・運営していく。

・市民活動フェスタの開催（市民活動フェスタ実行委員会）

事業実施期間	平成 18 年度～【実施中】
事業概要	市民活動団体が日頃の活動や成果を広く市民に紹介し、団体どうしの交流やネットワークづくりを推進するため、あらゆる分野の様々な市民団体が一堂に会し、ブース出展やステージ発表などを行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 平成 26 年度～平成 30 年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値 4,000 人／年 最新値 6,000 人／年 目標達成
達成した理由	市民同士の情報共有やネットワークづくりなどを、市民のニーズに沿ったイベントとして開催することができたため。
計画終了後の状況（事業効果）	市民活動フェスタをアオーレ長岡で実施し、同時開催イベント間との回遊が生まれ、まちなかの賑わい創出につながった。
事業の今後について	市民活動の促進と活発化に効果的であることから、今後も「市民活動フェスタ」を継続していく。

・子育ての駅ちびっこ広場駐車料金負担軽減事業（長岡市）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	施設利用者の負担軽減のため、駐車料金の一部無料化を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 平成 26 年度～平成 30 年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値 2,000 人／年 最新値 9,667 人／年 目標達成
達成した理由	子育て支援施設のニーズが高いこと、また駐車場利用者が想定以上に多かったため
計画終了後の状況（事業効果）	遊び場・保育・交流・相談・情報提供の機能を有した子育て支援施設の利便性を向上させることで、子育て支援の一層の充実を図るとともに、まちに来る人やまちに住む人、まちを使う人を増やし、中心市街地全体の活性化へ波及効果を生み出している。
事業の今後について	利用者の利便性を図るため、引き続き事業を継続していく。

・まちなか回遊性向上事業（NPO法人まちなか考房）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	まちなかの回遊性を高め、文化や歴史、食等をPRするため、「バル街」や「まちなか塾」を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし

目標値・最新値及び達成状況	目標値 600人/年 最新値 145人/年 目標未達成
達成出来なかった理由	ファシリテーター育成講座などの一回あたりの定員数が少なかったため(年10回開催 各定員10名)。また、バル街の回遊性の効果が非常に高く、そちらに注力したため、「まちなか塾」は開催されなかったもの。
計画終了後の状況(事業効果)	特定の場所に拘らず、まちなかの様々なところで講座を開催し、回遊性向上に努めている。
事業の今後について	市民のニーズに沿った講座の開催を検討・実施する。

4.今後の対策

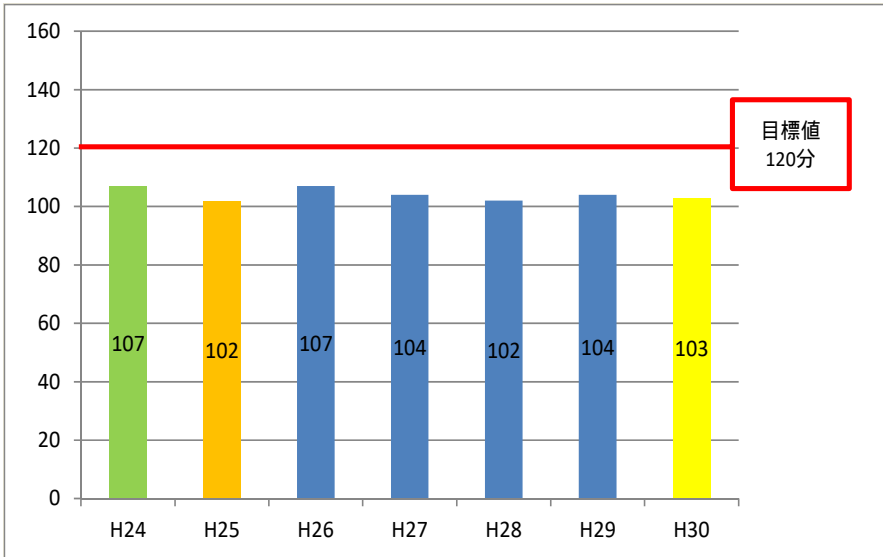
目標値には達しなかったものの、個々の事業を見れば、「市民活動フェスタの開催」や「子育ての駅ちびっこ広場駐車料金負担軽減事業」など目標値を大きく上回って達成したのもあり、利用者人数は増加傾向にある。

これまでの事業を継続することで既存施設のさらなる活用を促すとともに、大手通坂之上町地区第一種市街地再開発事業において、新たにまちなか図書館(仮称)や産学連携情報交流センター(仮称)を整備することで、市民が様々な用途で利用できるまちを実現し、さらなる賑わいの創出を図っていく。

今年度から開始した新たな「長岡市中心市街地活性化基本計画<第3期計画>」では、目標指標に位置付けなかったが、まちなかでの市民活動の状況を把握するためにも、まちなか公共・公益施設の利用状況を継続して注視していく。

「【参考指標】まちなかの滞在時間の増加」 目標設定の考え方基本計画 P75～P76 参照

1. 調査結果の推移



年	分
H24	107 (基準年値)
H25	102
H26	107
H27	104
H28	102
H29	104
H30	103
H30	120 (目標値)

調査方法：市営駐車場利用台数集計

調査月：平成30年4月1日～平成31年3月31日

調査対象：アオーレ地下駐車場、長岡市営大手通地下駐車場、
長岡市営大手口駐車場、長岡市営表町駐車場

2. 目標の達成状況 【C】

まちなかの滞在時間の増加に向けた各事業については、概ね予定通りに事業が進捗した。しかし、事業成果がまちなか回遊性の拡がりには繋がらず、まちなかの滞在時間の増加に繋げることができなかった。また、基準年値も超えることができなかったため、目標の達成状況はCとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・大手通表町西地区第一種市街地再開発事業（大手通表町西地区市街地再開発組合）
【再掲】

事業実施期間	平成23年度～平成28年度[済]
事業概要	市街地の機能更新と高度利用を図るため、福祉・医療施設、業務施設、商業施設、集合住宅等を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)(国土交通省) 平成23年度～平成28年度
目標値・最新値及び達成状況	-
達成出来なかった理由	整備した社会福祉センター「トモシア」を中心に多くの市民から利用されているが、周辺の施設やイベント等との連携が乏しく、まちなかを回遊する仕組みづくりが上手く出来なかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	テナントに学習塾や歯科医院等が入居したため、子供の送迎や通院などで駐車場を利用する人が増えている。
事業の今後について	事業完了済み。

・ナカドマ活用事業（長岡市）【再掲】

事業実施期間	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の賑わい創出に向け、屋根付き広場「ナカドマ」を活用して様々な事業や催しを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 平成 26 年度～平成 30 年度
目標値・最新値及び達成状況	-
達成出来なかった理由	ナカドマで様々な事業やイベントが開催され、多くの市民から利用されているが、周辺の施設やイベント等との連携が乏しく、まちなかを回遊する仕組みづくりが上手く出来なかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	アオーレ長岡の拠点性を活かした様々な催し物の開催により、郊外から自動車を利用してまちなかに来るケースが増えた。
事業の今後について	ナカドマで様々な事業やイベントを開催し、その賑わいをまちなかに拡がるような事業展開を検討する。

・長岡まちなかマルシェ事業（長岡商工会議所）【再掲】

事業実施期間	平成 25 年度～平成 28 年度【済】 [認定基本計画：平成 25 年度～]
事業概要	中心市街地の賑わい創出を図るため、地元企業の販売促進事業として、マルシェを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	-
達成出来なかった理由	ビアフェスタなど屋外で開催するイベント事業のため、天候に左右されやすかった。また、イベントのマンネリ化が進んでいた。
計画終了後の状況（事業効果）	本事業は終了したが、それに代わる事業として、各個店の紹介とお得に買い物できるクーポン冊子「ポッキリパスポート（ポキパス）」を発行して、市民から広く利用されている。
事業の今後について	事業完了済み。

・越後長岡美酒めぐり事業（「越後長岡」観光振興委員会）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の回遊性を高めるため、中心市街地飲食店と連携した「地酒めぐり」を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） 平成 26 年度～平成 30 年度
目標値・最新値及び達成状況	-
達成出来なかった理由	当初は「酒めぐりチケット」として飲食と引き換えできるチケットを販売していたが、各個店に晩酌セットを設け、パンフレット掲載店舗を個別に巡るスタンプラリー制にしたため、各店舗の利用状

	況や滞在時間などを判断することができなかつたため。
計画終了後の状況 (事業効果)	中心市街地飲食店や地酒等を紹介し、長岡ファンを年々獲得している。
事業の今後について	引き続き事業を実施し、各店舗との連携を深め、より魅力的かつ参加しやすい企画・検討して、参加者増加を目指す。

・まちなか回遊性向上事業（NPO法人まちなか考房）【再掲】

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	まちなかの回遊性を高め、文化や歴史、食等をPRするため、「バル街」や「まちなか塾」を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	-
達成出来なかった理由	ファシリテーター育成講座などの一回あたりの定員数が少なかったため（年 10 回開催 各定員 10 名）。また、バル街の回遊性の効果が非常に高く、そちらに注力したため、「まちなか塾」は開催されなかったもの。
計画終了後の状況 (事業効果)	バル街ではソフトドリンクも用意し、親子で参加できるようになったため、家族でのまちなかに滞在する環境を提供している。
事業の今後について	「バル街」を中心に、引き続き老若男女問わず参加できる事業を展開していく。

・まちなか歴史館めぐり事業（「越後長岡」観光振興委員会）

事業実施期間	平成 22 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の回遊性向上のため、まちなかに整備された歴史館等を周遊するための事業を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	-
達成出来なかった理由	対象施設や当該事業の認知度が十分でないこと、及び対象施設がまちなかだけでなく郊外にも分散しているため。
計画終了後の状況 (事業効果)	スタンプラリーを用いて市内の歴史・文化施設を知ることで、利用者を各施設に橋渡しすることができた。
事業の今後について	引き続き事業を実施し、対象施設や当該事業を広くPRして、利用者の増加を目指す。

・中心商店街合同イベント開催事業（長岡市商店街振興組合連合会）

事業実施期間	平成 11 年度～【実施中】
事業概要	中心商店街の誘客と販売促進を図るため、商店街が合同で実施するホコ天や合同セールを開催する。

国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省) 平成 26 年度～平成 30 年度
目標値・最新値及び達成状況	-
達成出来なかった理由	歩行者天国により一時的な賑わいを創出したものの、その賑わいを広げる各個店との連携が不十分だったため。
計画終了後の状況(事業効果)	歩行者天国に若者向けのイベントを連携することにより、若者がまちなかの各個店に興味を持つきっかけ作りとなった。
事業の今後について	引き続き事業を実施し、イベント来場者が各個店に流れる仕掛けづくりを検討する。

・個別商店街の活性化事業(各商店街)

事業実施期間	平成 2 年～【実施中】
事業概要	商店街の活性化を図るため、各商店街が実施する販売促進事業や商店街活性化事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省) 平成 26 年度～平成 30 年度
目標値・最新値及び達成状況	-
達成出来なかった理由	季節によってイベントを展開しているものの、広報不足等により各商店街に導くことが困難だったため。
計画終了後の状況(事業効果)	新元号アルファベット当てクイズなど話題性のあるイベントを行うことで、市民の興味関心を惹きつけた。
事業の今後について	単独でイベントを実施せず、アオーレ長岡で実施するイベント等と連携し、各商店街に誘客できるようにするなど検討する。

・中心市街地新規進出者支援事業(長岡市)【再掲】

事業実施期間	平成 28 年度～平成 30 年度【済】 [認定基本計画]平成 28 年度～
事業概要	中心市街地に新たに進出する商店・企業等に対し支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置活用なし
目標値・最新値及び達成状況	-
達成出来なかった理由	平成 28 年度から支援制度はあったものの、支援制度を十分に広報できておらず、また民間支援団体の柔軟な相談体制等により、行政を頼らずに民間主導で新規出店していたことから、当該事業が活用されず目標達成できなかったもの。
計画終了後の状況(事業効果)	行政支援に頼らずとも、民間事業者が主体となり中心市街地への新規進出者が増加している。 また、起業支援センターNAGAOKA を軸とした、中心市街地への出店支援や、ながおか若者しごと機構と連携した定期露店市場へのお試し出店など、出店意欲を高める取り組みを行っている。

事業の今後について

今後は民間事業者の意向やトレンドを的確に把握し、また民間事業者と連携しながら、必要な支援事業を検討していきたい。

4. 今後の対策

それぞれの事業で実績が出ていながらも、結果としてまちなかの滞在時間の増加に寄与することはできなかった。各商店街の事業においても、単独で事業を行うのではなく、複数の商店街が連携したり、アオーレ長岡等の公共施設で開催するイベントと連携するなどしてまちなかの回遊性を高めることで、まちなかの滞在時間は増加すると思われる。毎年開催するイベントについても、広報や話題性の重視、ニーズの把握など手段を工夫し、まちなかの滞在時間の増加につなげられるよう支援していきたい。